

特定非営利活動法人 日本ハンザキ研究所 会誌



あんこう

第11号

平成 25 年 9 月発行

「あんこう」はオオサンショウウオの当地の呼び名です

巻 頭 言

話題など

水辺教室の裏事情（後半） _____ 1
会 員 笹田 直樹

イラストスケッチ

ハンザキとの出会い（その8） _____ 2
会 員 田口 愛子

随想

農家民宿まるつね 開業2年を経て _____ 4
理 事 黒田 哲郎

イベント報告

24年度後半のイベント _____ 5
事務局長 奥藤 修・他

編集後記（編集長 黒田 哲郎）

巻 頭 言

ハンザキ研ニュースと共に遅れに遅れている会誌“あんこう”ですが、スタッフともどもこれではいけない、何とかしようということで、臨時編集長に黒田哲郎理事が頑張ってくれています。これまでもできるだけ多くの方々の原稿を集めたいとそれぞれその時の編集長が頑張っていたいただき当初の数倍のページ数にもなって、充実してきたなど喜んでいました。しかし、なかなか続けることは難しかったようです。私がほとんど一人で書き続けてきた“ハンザキ研ニュース”も順調に刊行してきたのですが、体調不良や肉体労働で疲れてパソコンに向かう気力が出ぬままに、一度遅れるとズルズルと遅れてしまいました。

今号では、黒田夫妻が始めた農家民宿“まるつね”の営業実態の一部が紹介されています。一年ごとの総括をしたらいいのにと考えてきたのですが、本業やなれない民宿の営業、NPO のボランティア作業などなどで実現しなかったようです。“庭先から野生のハンザキを見ることが出来る宿”と言って私も事あるごとに宣伝に努めてきました。それはやはり、なかなか姿を見ることが難しそうなハンザキを見て知って頂き多くのファンを作りたいと考えてのことです。ハンザキの保護にはこれが一番大切なことだと思います。見たこともないあまりよく知らない生き物のことで保護をと言っても、無理があります。まず知って頂く、触れてみることで、驚くような生態を知ることは強くハンザキのことを印象付けることにつながることでしょう。ハンザキ研の例年のイベントで夏休みなど年に 3 回の夜間観察会を実施しています。茨城県から福岡県までの間の各地から毎回 40～50 人もの参加者が続いているということは、それだけ見たことのないハンザキに対するあこがれがあるのではないかと考えています。今年も実施しますので天候さえよければ必ず見て頂けるので、会員の皆様だけでなく周辺の方々もお誘いしてみして下さい。

平成 27 年 2 月 10 日

NPO 法人 日本ハンザキ研究所
理事長 栃本 武良

話題など

水辺教室の裏事情（後半）

環境カウンセラー 笹田直樹

前半を投稿してから随分と時間が経ってしまいました。前半では「企画」、「現地見」、「開催直前」までの流れをスタッフの視点から紹介させていただきました。後半では開催当日、後片付けについての拙文を続けます。

開催当日：天気予報と開催場所の川の水位の確認から始まります。第一陣が開催場所で水位を確認し、連絡を受けたスタッフは現地に向かいます。なお、流域が広い河川では、前日の上流での降雨情報も把握しておいた方が安心です。その場所が晴れていても、時間が経ってから増水することがあります。上流にダムや堰がある場合は、事前と当日、管理者へ周知しておくこともお忘れなく。川の中州に取り残されたりすれば、重大な事故になりかねません。予定時間の 30 分ほど前から、参加者の姿が見えてきます。既に網を振り回している男の子、密かに魚取りへの闘志を燃やすお父さん、教育という信念を瞳に刻んだお母さん（たぶん）などなど。スタッフが集まり具合を片目に水槽やタモ網を並べてゆきます。参加者がそろったら、責任者の挨拶に続き、川に入る注意事項を丁寧に説明します。安全な服装や靴か、帽子を着用しているか、引率するスタッフは誰か、怪我をしたらどうするのか、事故防止の呼びかけも必須です。次に、魚や水生昆虫の捕まえ方のレクチャーです。みんな網を振り回したがりです。トンボやセミは、そうやって捕まえます。でも、水の中では勝手が違い、抵抗に逆らって網を振れば、網は壊れてしまいます。魚などが逃げ込みそのような場所や流れの下流に網を置いて、足で網へ追い込んで捕まえます。しかし、そんな説明は 5 分もしないうちに忘れられています。時々、実際に取り方を見せて、運よく大物が捕まれば、みんなその方法を覚えてくれます。

ところが、楽しい時間は、直ぐに過ぎてしまうもの。バケツの中が少しにぎやかになり、何人かの男の子が全身びしょ濡れになる頃には、採集時間は終わりです。今度は滑っていけないように河岸に全員を誘導し、一休みです。水分を摂ってもらい、気分の悪い方がいないか確認しながら、スタッフで獲物の仕分け作業を始めます。何を捕まえたのか、参加者と一緒に集計するのも楽しい時間です。大物や珍しい魚には、歓声が上がったりもします。捕まえた生物の種類や数、さらにそれらの習性、生態から見えてくる調査地の特徴を解説します。終わりに、感想を聞き、意見交換をして解散です。この魚、もって帰っても良いですか？楽しい観察会ではそんな声が聞かれます。保護者の方に、きちんと飼育できる水槽や最後まで面倒をみる覚悟があるかどうか確認してから、笑顔でお別れです。

後片付け：1 種でも多くの種類を見せたい、大物を捕まえてあげたいと思うのはスタッフのお節介なのかもしれません。事故が無く運営でき、参加者の笑顔に接し、環境に対する前向きな思いが少しでも聞けたら、スタッフの思いは満たされるものです。忘れ物とゴミのチェックを済ませて撤収です。なお、採捕許可など事前に申請を行った調査項目については、報告が必要です。開催状況と確認種リストなどを整理して、関係機関に提出すれば手続きも完了です。

おわりに

どうでしたか？水辺教室の裏事情。裏って言うほどの秘密はありませんでしたね。でも、これを読まれたあなたは、既に水辺教室のスタッフに一歩近づいたことは確かです。是非、この夏、近所の水辺教室に足を運んでください。時折、あなたが周りを見回すだけでも、大切な安全管理の手伝いになります。そして魚をそっと手で掬い、子供達の歓声を聞きませんか。美味しいスイカやビールを思い浮かべながら。

イラストスケッチ



2015.1
たぐちあいこ

ぬいぐるみ 特集

今回は我が家にある
ハンザキぬいぐるみ
を大特集!! マニア目線
で勝手にレビューしちゃい
ます! 辛口御免!!

ハンザキ抱き枕 〈いくの銀谷工房〉

◀全長:約72cm
一体一体が
世界に一つだけの
手作りです。
工房のお母さん方
の手によって、生み出されて
います。
和風の柄布の組み合わせ
に、作り手のセンスが光り
ますよ!

次々に葉柄柄ハンザキが登場するので
目が離せません!!



ティッシュカバー 〈京都水族館〉

◀全長:45cm
一見してアザランガと思う外見
ですが、ハンザキのこと。
手足はデフォルメされていて、
指は全くありません。中央に
ティッシュを出す穴があります。



全長:26cm▶

ASHOW オオサン ショウウオ 〈安佐動物公園〉

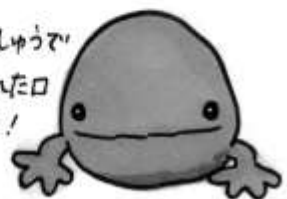
ぬいぐるみに珍らしいパイル地で
できたハンザキ。尾部と側面に
ヒダがあり、細部にこだわっている
のかと思いきや、後肢の指が.....

小ざぶとん 〈京都水族館〉

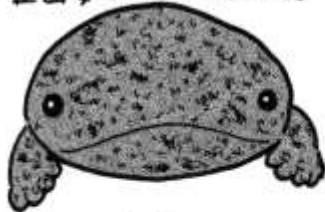
◀全長:42cm
どうしてこうなってしまったの
でしょうか...?
6つしかない斑紋。
のっぺらぼうの手足。
キワメツキは
謎のエラ.....
でも何だかかわいいので
部屋にいる、そんな一体です。



黒いしゅうで
表現された口
かわいい!



正面姿もイロ味出てます。



オオサンショウウオ ぬいぐるみ 〈京都水族館〉

全長: 90cm ▲

一般市民にも有名!?

京都水族館のハンザキぬいぐるみ。

手のひらサイズから、なんと超特大170cmまで
各種そろっている充実ぶり。我が家には全長
90cmのハンザキが鎮座しています。

クオリティもなかなか高く、リアルさと
かわいらしさが上手くマッチ。
ふわふわで昼寝用の枕に
しても心地よいです。
1つ注文をつけるのであれば
体の柄が京都の賀茂川
で悪名たかいハイブリッド
(女難種)ハンザキ柄なのです!
日本産の柄でも作ってほしい!!

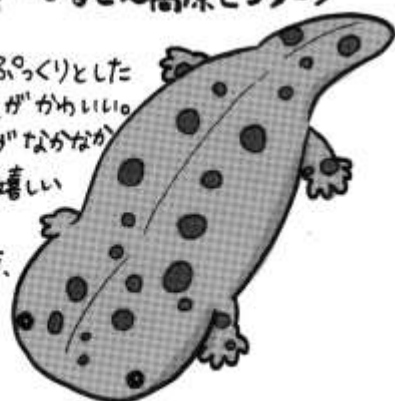


OH! サンちゃん!!

ぬいぐるみ

〈ひるぜん高原センター〉

ふっくらとした
フォルムがかわいい。
指の表現がなかなか
秀逸。マニアに嬉しい
一本です。
カラーはセシク白、黄、
水色、ゴールドなど、
光沢の有無も選べます!

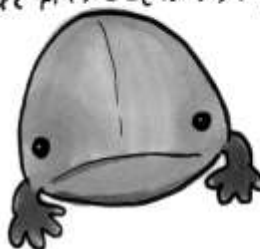


Cutie! オオサンショウウオ ▼全長: 23cm

ぬいぐるみ

小太りで尾が短く、手足がひよる長い。

そして、頭と胴の長さが一緒という
2.5頭身のフォルムです。毛足のある
素材で解り心地はフワフワ!



正面から見ると
おにぎりみたいな
開いた頭。

ディテールに、かなりこだわりのある一本。
尾部のヒダヤツツ、側面のヒダ、体色、模様
など、本物のハンザキに似せています。
我が家のハンザキぬいぐるみの中で一番リアル!
口を開けているのも、地にはなかなかない
特大サイズ。やや光沢のあるベロア調の素材です。



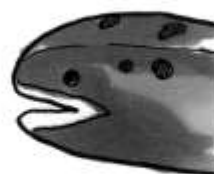
全長: 約46cm

カラータ

ENDANGERED
SPECIES

リアルシリーズ

オオサンショウウオ
Mサイズ



横から見ると、
口を開けています!
口の中は薄ピンク色。

リアル度 →

随想

農家民宿まるつね 開業 2 年を経て (1)

理事 黒田 哲郎

2013 年 4 月 2 日に農家民宿まるつねをオープンさせてから早二年が経つ。全てが初めてだった一年目と異なり、少し余裕の出てきた今、これまでを簡単に総括を試みたいと思う。

宿の Facebook で情報発信していることもあり、出来るだけ未公開の情報を出そうと思う。

お客さんの一番の関心はオオサンショウウオを見る事が出来るのかということであるが、一年目は 100% 見る事が出来ていた。もちろん野生の生き物であるから見られればラッキーということであるが、最初のうちは何としてでもお客さんに見せてあげなければいけないという気負いもあり、一緒になって探し回り、一時間半掛けて何とか発見ということもあった。二年目になると、何が何でも見たいというお客さんがやや減り、こちらもひたすら探し回ることをやめ、見つからなければしょうがないというスタンスを取っている。なので見られる確率はやや減っているが、それでも 9 割以上の確率で見ることが出来ていると思う。ちなみに宿のキャッチフレーズである「オオサンショウウオに会える宿」というのは開業前、岡田副理事長と話していた時に出た「オオサンショウウオに会える宿なんて、世界中どこにもないですよ」という言葉をそのままいただいたものである。

利用者は、宿泊者と一時利用者を含めて、初年度が 400 名程度、二年目が 500 名程度である。その中で、ある程度予想はしていたが、それを上回る結果になっているのが、外国人のお客さんが来ることだ。これまで EU 諸国を中心に 9 ヶ国からの訪問がある。皆が口にするのが「世界の最果ての国にこんな大きな両生類がいるなんて、めちゃくちゃ凄いや！」ということだ。鹿やタヌキと変わらぬ頻度で見ている我々には理解出来ないが、食事もそこそこ、一日中ひたすらオオサンショウウオだけでなく蛇や蛙、小

型サンショウウオなどを探しているの、好きな人にとっては天国に違いない。

そして日本人と外国人の過ごし方には大きな違いがある。日本人はほとんどが一泊二日で、人によっては一時間おきの小刻みな予定を決めて泊まりに来られる。着いたらすぐに野菜のもぎ取り、次に川で水遊び、その次は温泉入浴、髪も乾かぬうちにかまどでご飯炊き体験を行い、夕食を食べ、その後は川へオオサンショウウオ探し。そしてヘトヘトになって就寝、疲れを残して翌朝出発する。それに対し外国人はほとんどが複数泊であり、気の向くままに行動する。朝はゆっくり起き、昼前までコーヒーなどを飲んで過ごし、昼前後から移動、昼ご飯を食べずに生き物を探し回り、日が暮れてから戻る。そして夕食もそこそこに夜も生き物を探しに行くといったパターンである。ちなみに欧米の方を見ていると、昼食はちゃんと取らずにいい大人でもお菓子を食べていることが多い。そしてジュース類も好きな様だ。まあ食の嗜好は仕方がないが、旅の仕方、遊び方については一日の長があると思う。時代も大分変わってきているように思うので、日本人もゆったり遊ぶような旅行をして欲しいものだと思います、こちらからもそのような遊びの提案をしていかなければならないと感じている。



ドイツからのセバスチャンは 3 泊まるつねで

イベント報告

キノコ定点調査

- ① 講師 横山了爾・宇那木 隆
- ② 日時 4月29日～9月12日
- ③ 参加者 41名（調査7回）
- ④ 所感

2年目の今年は4月29日からキノコ調査を実施した。今回はキノコの発生が少ない。キノコが出始める時期を確認することは重要、早めの調査開始を決めた。調査に当たり宇那木講師から「頻繁に繰り返すサンプル採取がキノコの減少に影響している」これまでの調査地でも同様の傾向があると指摘を受け不要な採取は極力控える気構えで挑む。調査地点は、ハンザキ研究所から黒川ダム堤体までの間に、急勾配の雑木林を No.1、杉、クリ、コナラの混業林を No.2、大径木のモミ林を No.3、川沿いの雑木林を No.4、ハンザキ研南山西側雑木林を No.5、東側植林（杉、桧）を No.6 として、各地点 10m×20m の調査地が設定されている。4月29日～7月18日の間はカレエダタケなどの腐食菌のキノコが見られるがその量は比較的少ない、7月30日の調査からは、イグチ、テングタケ、フウセンタケなどの菌根種を中心としたキノコが多く発生し調査時間が大幅に伸びる日もあった。9月の調査には、東京テレビの取材同行（スタッフ4名）があった。なだらかな里山での調査をイメージしていたのか、身体の置き場のない急勾配での取材に女性レポーターが悲鳴を上げていた。

植物調査（春の植物）

- ① 講師 前田常雄
- ② 日時 5月21日（火）9：00～16：00 晴れ
- ③ 場所 黒川区長野・黒川ダム左岸（関電ダム）・銀山湖左岸（県営生野ダム）
- ④ 参加者 3名
- ⑤ 所感

今回の調査は、午前中に地域5集落あるうちのひとつで、三国山の麓にある長野集落と黒川湖左岸、午後は銀山湖左岸で採集を行った。三国山麓は、40年ほど前には家屋の屋根萱や

干し草刈り場として、また、牛の放牧場などに利用されていた。当時は、全山雑木林とススキやクマザサが生い茂り、山菜やキノコなどが豊富に生えていて貴重な山の食糧庫であった。また、イノシシ、ウサギなどの獣も多く地元猟師の良い狩場でもあった。現在は、人工林の杉桧が山を覆い植物が繁茂する場所は限られている。林内は獣の食害で低層植物は無く黒い山肌をむき出した状態である。黒川ダム、銀山湖の周辺も同様に採取種類数は極めて少ない。落石防止金網の下に残る植物と中高木の花や実が主な採取物となる。

野鳥調査（バンディングとウオッチング）

- ① 講師：脇坂英弥夫妻
- ② 日時：6月16日 9：00～14：30 曇りのち晴れ
- ③ 場所：日本ハンザキ研究所周辺と県営生野ダム（銀山湖）左岸
- ④ 参加者：5名
- ⑤ 所感

講師の脇坂英弥夫妻は、早朝6時からハンザキ研究所敷地に接して流れる市川の上流と下流部にカスミ網を仕掛け、カワガラス、セキレイ、カワセミ、ヤマセミなどを捕獲の対象とした。バンディング後、銀山湖に移動しウオッチングを行った。オオルリ、ホトトギス（幼鳥）イカルなど大変珍しい野鳥を確認した。

野鳥確認リスト、(ハンザキ研周辺・銀山湖左岸)

鳥名	確認数	囀り	適用
オオルリ	2	2	銀山湖・ハンザキ研
コゲラ	1	1	銀山湖
メジロ	1		ハンザキ研
ホトトギス	1		銀山湖・幼鳥（巣立ち中）
イカル	1	1	銀山湖
ウグイス		5	ハンザキ研・銀山湖
アオゲラ		1	銀山湖
トビ	1		銀山湖
ヒヨドリ	4	5	ハンザキ研・銀山湖
カワガラス	1		ハンザキ研：幼鳥（捕獲）
キセキレイ	5		銀山湖・ハンザキ研：幼鳥（捕獲）

事務局 奥藤 修

編集後記

会誌「あんこう」の発行は約二年も遅れ、会員の方には大変ご迷惑をおかけしており、申し訳なく思います。事務局会議ではこのまま放っておく、廃刊する、合併号を出す、発行間隔を延ばすなどの意見が出ました。ただ、栃本理事長も何とか追いつくべく日本ハンザキ研究所ニュースの作成を頑張っていることもあり、四号まとめて発行する案を提示し、意を決してこの間だけの編集長を買って出しました。

まず決めたのは、四ヶ月の間に四号出すことを最優先事項とし、これまで号を重ねるごとにページ数が増加していたことが遅延の一因になっていたため、ページ数は思い切って最低限の 8 としました。表紙、裏表紙、その他お決まりのページを入れると読み物は少なく、年度末ということで記事の作成依頼をお願い出来ないケースもあり、従前と比較して大変物足りなくお感じのことと思いますが、少しの間、ご容赦願いたいと思います。

また、一ヶ月に一号の割合ということも考えましたが、いろいろな要素を考慮し、一度に全部発行することにしました。それにより時期の合わない記事などが出てくることもあると思いますが、これも違った味と思って読んでいただければ幸いです。

臨時編集長 黒田 哲郎



平成 27 年 3 月 31 日 発行

特定非営利活動法人

日本ハンザキ研究所

兵庫県朝来市生野町黒川 292

電話/FAX: 079-679-2939

e-mail: info@hanzaki.net

HP URL: <http://www.hanzaki.net>

